

令和4年度 第1回神栖市若手医師きらっせプロジェクト推進会議サマリー

1 日時・場所 令和4年7月26日（火）19:00～21:00
神栖市役所分庁舎 3階301会議室

2 出席者 委員13人、市10人、受託業者5人
(別紙名簿のとおり)

3 会議結果

(1) 神栖市長より挨拶

(2) 委員紹介

(3) 令和3年度事業実績について

・実績①～⑬について、委員から下記のとおり承認された。

(実績)

① 推進会議・分科会

- ・推進会議1回（令和3年7月13日）
- ・産業医関連に係る分科会2回（令和3年9月14日、令和4年1月26日）
- ・医師修学生実習に係る分科会1回（令和4年1月19日）

② 専門医研修プログラム

- ・令和3年度参加承認（令和4年度スタート）プログラム
神栖済生会病院／順天堂大学整形外科プログラム
白十字総合病院／東京医科大学茨城医療センター内科専門プログラム

③ 地域特性を生かした研修メニュー

- ・産業医学基礎研修会を16日間開催し、22都府県から延べ687名が参加。

④ 市の支援制度の充実

- ・若手医師受入支援事業について、3医療機関に対して支援。
- ・地域赴任医師支援事業について、2医療機関8名に対して支援。

⑤ 市修学生医師・医学生サポート

- ・医師修学資金を活用中の9名との交流会について、コロナの感染拡大の影響により中止。市の特産品を送付。

⑥ 指導医・事務局職員スキルアップ

- ・先進地視察はコロナの感染拡大の影響により中止。
- ⑦ 専用ホームページ「神栖医住」について
 - ・新たに神栖市に赴任された医師のインタビュー、各医療機関の募集要項、市の支援制度等を掲載。
 - ・ホームページへのアクセス件数は前年よりも増加傾向となり、他自治体の同様の取組みと比較しても評価できるものとなっている。
- ⑧ メールマガジン
 - ・支援制度の概要等について、全国の医師を対象にメールマガジンを配信。
配信日：令和4年1月12日 配信数：49,625件
- ⑨ チラシ／医学雑誌への掲載
 - ・ドクターズマガジン10月号にて本プロジェクトの概要、市内医師のインタビュー記事等を掲載するとともに、支援制度等をまとめたチラシを同梱して全国の医師へ配布。
- ⑩ パンフレット関連
 - ・市内医療機関に勤務する医師のインタビューを掲載するなど内容の改訂。
 - ・県内医療機関及び全国医科大学に送付。
- ⑪ レジナビ
 - ・コロナの感染拡大の影響により開催が中止。
- ⑫ セミナー誘致、開催支援
 - ・国際医療福祉大学の3年生を対象とし、本プロジェクトの概要や市のコロナ関連事業についての講義を実施（WEB）。
- ⑬ 事務局サポート体制
 - ・産業医学基礎医学研修会に関する情報発信や参加者とりまとめ、市内企業への協力要請等を実施。

(4) 令和4年度事業計画（案）について

- ・計画①～⑬について、委員から下記のとおり承認された。

(計画)

- ① 推進会議・分科会
 - ・推進会議2回（令和4年7月26日、令和5年3月末）
 - ・産業医関連に係る分科会1回
 - ・医師修学生実習に係る分科会2回
 - ・専門研修プログラムの拡充に係る分科会1回
- ② 専門医研修プログラム

- ・令和4年度参加承認（令和5年度スタート）プログラムとして、白十字総合病院及び鹿嶋ハートクリニックにおいて、筑波記念病院内科専門医研修プログラム及び筑波記念病院外科専門医研修プログラムの申請を行う。
- ③ 地域特性を生かした研修メニュー
 - ・産業医基礎研修会については、全10回開催予定。
 - ・前期研修を2回開催することとし、研修機会の拡充を図る。
- ④ 市の支援制度の充実
 - ・各医療機関に対し、各種支援事業の周知を図る。
- ⑤ 市修学生・医学生サポート
 - ・医師修学資金を活用中の9名と面談、医療機関見学等を実施。
 - ・交流会や実習機会の提供に向けた協議検討を行う。
- ⑥ 指導医・事務局職員スキルアップ
 - ・先進地視察を開催予定。候補地等の選定を進める。
 - ・分科会において専門医制度の習熟を図るための協議等を進める。
- ⑦ 専用ホームページ「神栖医住」について
 - ・本プロジェクトの取組み、支援制度等の情報発信を継続。
 - ・産業医研修会の周知案内、参加者とりまとめ等を継続。
 - ・市内医療機関の医師インタビューの実施、記事掲載。
 - ・市内医療機関紹介ページの充実。
- ⑧ メールマガジン
 - ・支援制度の概要等について、全国の医師を対象にメールマガジンを配信予定。
 - ・配信時期については、医師の人事等の時期を踏まえ適切な時期を検討。
- ⑨ チラシ／医学雑誌への掲載
 - ・今年度は予定なし。
- ⑩ パンフレット関連
 - ・市内医師のインタビューを掲載、構成を見直すなど内容の改訂予定。
 - ・高校や予備校等の学生等を対象としたサブパンフレットを作成予定。
- ⑪ レジナビ
 - ・令和4年6月19日（日）のレジナビに参加。
 - ・市内専門研修施設に協力いただき、市の概要、受入体制等について説明。
ブース訪問者：約25名
- ⑫ セミナー誘致、開催支援
 - ・国際医療福祉大学の3年生を対象とし、市の医療政策等に係る講義を実施

(WEB)。

⑬ 事務局サポート体制

- ・新たな研修メニュー（JMCC講習会など）の検討行う。
- ・産業医研修会の参加者に対し、市内勤務に向けたフォロー業務を実施。
- ・医師向けエージェント等と連携した医師誘致の強化。

(主な意見、要望等)

専門研修プログラムについて

- ・神栖済生会病院の受け入れ状況について、令和元年度では6件だったが令和3年度には12件に増加したことは評価できる。
- ・茨城県の地域枠医師等の赴任に向け、プログラムを拡充し、受入窓口を広げたい。
- ・指導医のもとで産業医を学びたいと希望する総合診療医が全国的に多い中、神栖産業医トレーニングセンターが開設されたことで神栖への注目度が高まっている。
- ・筑波大学の総合診療と協同し、総合診療専門医を取得したばかりの医師が、サブスペシャリティとして産業医学を身につけられるプログラムを神栖で提供できるよう用意を進めている。

医師の配置や養成について

- ・国際医療福祉大学では、来年度に初めて学生が卒業し研修医になる。医師の配置については、千葉県の医療体制の整備が優先されるため、神栖への配置等はすぐには難しいと考える。

プロジェクト名について

- ・若手医師を育成するためには、中堅層となる指導医も必要であり、若手だけ求めているわけではないのでプロジェクト名については検討いただきたい。一定の理解をいただける意見もあるため、当面現状のままとする。

専任医療クラークの配置について

- ・医療過疎地域で診療を続けてもらうためには、医療に専念でき、安心して質の高い医療が提供できていると感じられる勤務環境を整えることが必要。
- ・医師をサポートする医療クラークの主な仕事内容は標準化されているため、研修機会を提供できる人材育成環境の整備に向けた支援を検討いただきたい。
- ・鹿嶋ハートクリニックでは外来の入力や入院中の方のオーダー、紹介状の

一部の作成等を行っておりクラーカー一人に対して要求されるものは高い。

専用ホームページ「神栖医住」について

- ・医師の確保に繋がっていることなど、本プロジェクトの実績や効果について公表すべきではないか。市民に分かりやすいよう周知するとともに、これからどうアプローチをかけていくのか検討いただきたい。
- ・ホームページアクセス件数について、ページ毎の検証・分析してはどうか。
- ・フェイスブックやインスタグラムなど、SNSで公式アカウントを作成するなどし、より効果的な情報発信の手法を検討いただきたい。
- ・本プロジェクトの取組内容をホームページ上でより分かりやすく周知を図っていただきたい。
- ・市で本プロジェクトの各種事業を推進を図っているが、市が動くのではなく病院が率先して動き、市はそれをフォローしていく体制づくりが必要。

(5) 若手医師受入支援事業費補助制度について（令和4年度分）

- ・若手医師受入支援事業費補助制度のうち、医師研修事業の対象者について、2医療機関から計4件の申請があり、すべて承認された。

(6) 初期臨床研修病院の設置を目指して

- ・現在、神栖済生会病院、白十字総合病院が臨床研修プログラムの協力施設になっている。
- ・本年度から協力型臨床研修病院の申請を進めても、初期臨床研修病院（基幹型臨床研修病院）として指定されるには、最短でも6年間程度かかることを説明。
- ・若手医師の獲得に向け、初期臨床研修病院を設置を目指すための取組みについて医療機関にも協力をお願いしたい。

(7) その他

- ・神栖済生会病院の濱田医師から、神栖済生会病院を基幹施設とする在宅医療専門研修、病院総合診療専門研修の各プログラムの申請を行ったこと、ならびに産業医養成プログラムにおいて神栖済生会病院内科が教育研修に関わりたい方針である旨の説明がなされた。